

Vamos a Tierra de Caballeros

松嶋 公美

いざ、騎士の地へ

カラトラバ騎士団とサンティアゴ騎士団



マドリードからまっすぐ南に 200 km ほど下ったところにある古都「シウダ・レアル」。この町を中心に周辺 5 つの町を併せた一帯を、人々は「騎士の地 (Tierra de Caballeros)」と呼び、親しみ尊んでいる。

かの有名なドン・キホーテの舞台になっていることも由来の1つだが、この大ベストセラーが書かれる数世紀も前にこの地域に存在した「カラトラバ騎士団」と「サンティアゴ騎士団」が、何よりもその名の所以である。彼らは、今日のラ・マンチャの「礎」を築いたとして歴史に名前を残す騎士団で、その功績は学校の教科書にも必ず取り上げられるほど。ちなみに、ドン・キホーテが夢中になって読みふけた挙げ句遍歴の旅に出るきっかけとなった騎士道小説の数々も、当時の騎士たちをモデルに綴られたものだった。

では、なぜ中世のイベリア半島に騎士団が生まれたのだろうか？それは「レコンキスタ」の真っ最中だったから。レコンキスタとは、モーロ人 (イスラム教徒) の来襲によってあっという間に北方に追いやられてしまったスペイン・カトリックが、南方に向かって「国土回復」、または「再征服」を図っていく運動で、718年に始まった。しかし、国土を回復しても住民が異教徒であるという理由で殺してしまっは、せつかく手に入れた土地を耕してくれる者もいなくなってしまう。そのためカトリックに改宗させたモ



カラトラバ騎士団の紋章

サンティアゴ騎士団の紋章



ビルヘン・デ・ラ・シエラ聖堂中庭、
ビジャルビア・デ・ロス・オホス

ーロ人をしっかりと統制し、新たな秩序や法、政治・経済・教育制度を徹底して敷いていく必要があった。

400年もの時間をかけてやっとシウダ・レアルまで南下した「前線の国境」と「キリスト教徒」を守るため、そして「新しい自治区」を広げていくために創設されたのが、カラトラバとサンティアゴの両騎士団だ。しかも彼らは、ローマ法王直々の命で武器を持って立ち上がった「スペイン初の僧侶による戦闘騎士団」だった。そう「修道士」として祈りも捧げれば、「戦士」として人も討ったのだ。これら騎士団の紋章に「十字架」が用いられているのはそのため。ちょうど時期を同じくして、十字軍遠征後のパレスチナにも「聖ヨハネ」や「テンプル」といった「騎士修定会」が結成されていることから分かるように、当時の教皇の権威は「絶対」であり国王をも遥かに超える存在だった、ということ忘れてはならない。

やがてカラトラバ騎士団、サンティアゴ騎士団は、強大な軍事力と富を持つ、政治的に独立した巨大組織へと成長していく。例えば、第28代カラトラバ騎士団長のペドロ・ヒロン (任期1445-1466) は、あのイサベル女王の結婚相手に選ばれたほど。しかしそこは陰謀渦巻く中世のこと、婚礼の儀のために旅立った矢先、彼は何者かに毒をもられ「ビジャルビア・デ・ロス・オホス Villarrubia de los Ojos」の町で非業の最期を遂げることになる。団長の亡骸は今でもこの村に眠っているそうだ。

騎士の地には、こうした逸話や足跡が今も数多く残っている。スペースの関係で全ては紹介できないが、町ごとに主なものを見ていこう。

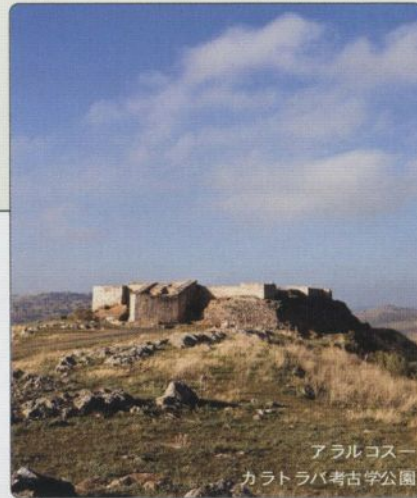


シウダ・レアル県中部北方から南方東寄り。県都シウダ・レアルまで、マドリードから約200Km、高速鉄道 (AVE) でマドリードから55分、セビージャからは約2時間。

シウダ・レアル Ciudad Real



アラルコスーカラトラバ考古学公園
-アラルコスでは 1195 年、キリスト教徒がイスラム教徒に大敗するという歴史的な戦いがあった。

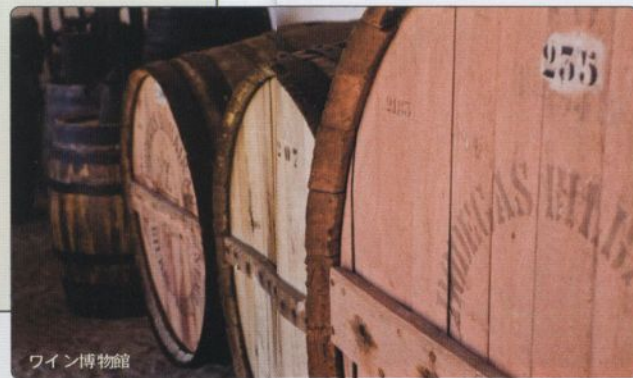


アラルコスー
カラトラバ考古学公園

バルデペーニャス Valdepeñas



ワイン博物館
- 今ではワイン醸造で名高いこの町に、ブドウ栽培技術を導入したのがカラトラバ騎士団だった。

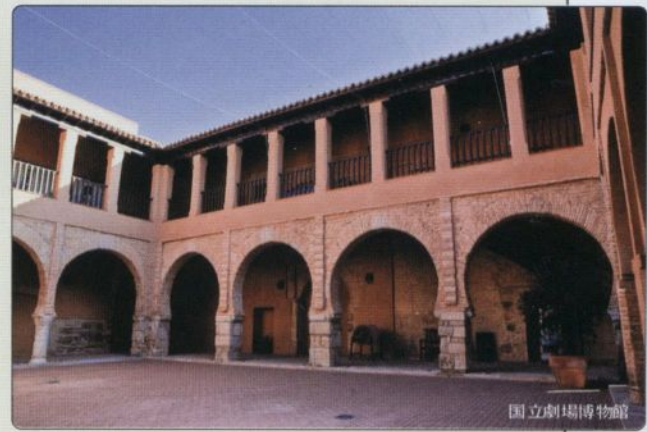


ワイン博物館

アルマグロ Almagro



国立劇場博物館
- 当時のカラトラバ騎士団長邸として建てられた。
サンブラス礼拝堂 - アルマデンの水銀鉱山採掘権を得て、16世紀に移住して来たドイツの銀行家・フッガー一家所有の施設だった。



国立劇場博物館

ダイミエル Daimiel



タブラス・デ・ダイミエル国立公園 - イベリア半島中央部の高原台地特有の湿地帯で、120種類以上の野鳥が生息する。水源としてはもちろん、小麦を挽くための水車も多く設置されていたことから、カラトラバ騎士団の重要な財源となった。



タブラス・デ・ダイミエル国立公園

ビジャヌエバ・デ・ロス・インファンテス Villanueva de los Infantes



フランシスコ・デ・ケベド - 黄金世紀の文豪として名を馳せた彼はサンティアゴ騎士団員でもあり、この町で亡くなった。肖像画の胸部には騎士団の紋章が描かれている。
サンアンドレス教会カテドラル - サンティアゴ騎士団によって建立された教会で、ここに文豪ケベドも埋葬されている。



フランシスコ・デ・ケベド